

## 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

アバディーン・ジャパン・オープン(愛称：メガトレンド)は、2017年9月19日に第40期の決算を行いました。

当ファンドは、日本株式を主要投資対象とし、グローバルな視点に立って日本の株式市場の大きな流れを捉え、企業訪問等を中心とした徹底した調査・分析に基づき個別銘柄を選別するボトムアップ・アプローチによるアクティブ運用を行います。長期的な視野に立った運用を基本とし、運用コストを低減したポートフォリオの構築を行いつつ長期的にベンチマークを上回る投資成果を目指し、信託財産の成長をはかることを目的とします。なお、株式への投資には、制限を設けません。

当期も方針に沿った運用を行いました。ここに運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも引続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。

# メガトレンド アバディーン・ジャパン・オープン

追加型投信／国内／株式

## 交付運用報告書

第40期

決算日：2017年9月19日

第40期末 (2017年9月19日)	
基準価額	9,905円
純資産総額	5,061百万円
作成対象期間 (2017年3月18日～2017年9月19日)	
騰落率 (分配金(税引前)再投資後)	6.2%
分配金(税引前)	0円

(注) 騰落率は収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。

本書記載事項以外の詳細な内容を記載した運用報告書(全体版)は当社ホームページ(右記アドレス)でご覧いただけます。

書面での交付をご希望の場合には、販売会社を通じて交付いたします。

右記ホームページの左端にある「ファンド情報」のメニューから「運用報告書」を選択することにより、当ファンドの運用報告書(全体版)を閲覧およびダウンロードすることができます。

## アバディーン投信投資顧問株式会社

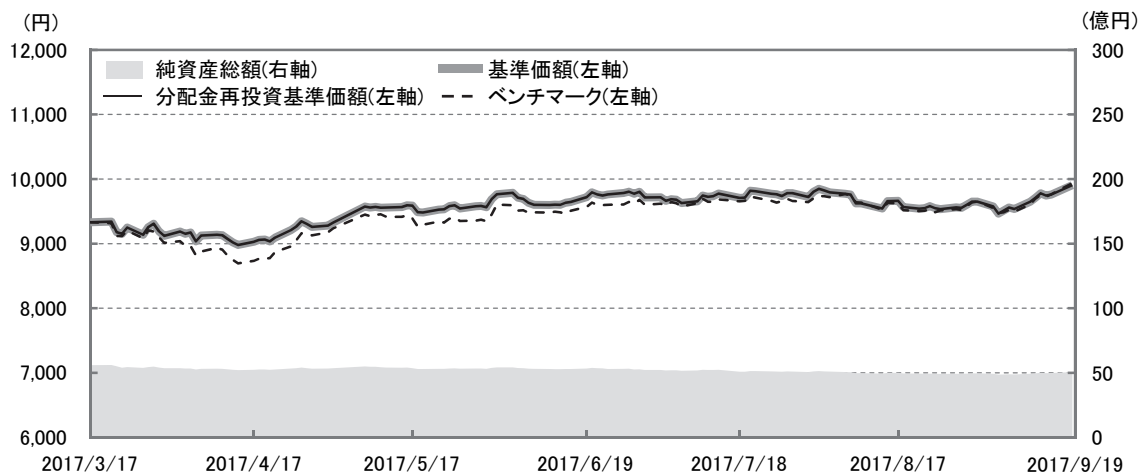
〒105-0001 東京都港区虎ノ門1-2-3 虎ノ門清和ビル  
お問い合わせ窓口 03-4578-2251

(受付時間は営業日の午前9時から午後5時までです。)  
インターネット・ホームページ <http://www.aberdeen-asset.co.jp>

## ● 運用経過

### 当期中の基準価額等の推移について

ファンド	当ファンドは第40期の決算を迎え、基準価額は前期末の9,330円から当期末には9,905円、値上がり額は575円、当期の騰落率は6.2%の上昇となりました。
ベンチマーク	ベンチマークであるTOPIX(東証株価指数)の騰落率は6.5%の上昇となり、当ファンドの騰落率はこれを0.3%下回りました。



- (注1) ベンチマーク(ファンドの運用を行うにあたって運用成果の評価基準又は目標基準とする指標)は、『TOPIX(東証株価指数)』です。ベンチマークは、期首の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 分配金を再投資するかどうかについてはファンドおよび販売会社の取り決め、もしくはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるので、上記の推移がお客様の損益の状況を示すものではありません。

第40期首	9,330円
第40期末	9,905円(既払分配金(税引前)0円)
騰落率	6.2%(分配金(税引前)再投資ベース)

### 基準価額の主な変動要因

上昇要因	「ボトムアップ・アプローチ」による銘柄選定を行い、海外での景気の堅調さを受けて海外売り上げや事業展開の大きい銘柄等が基準価額の上昇要因になりました。
下落要因	日本国内に顧客や販売の基盤を持つ企業が日本の株式市場の上昇に乗りきれず、基準価額の停滞要因になりました。

## 1万口当たりの費用明細

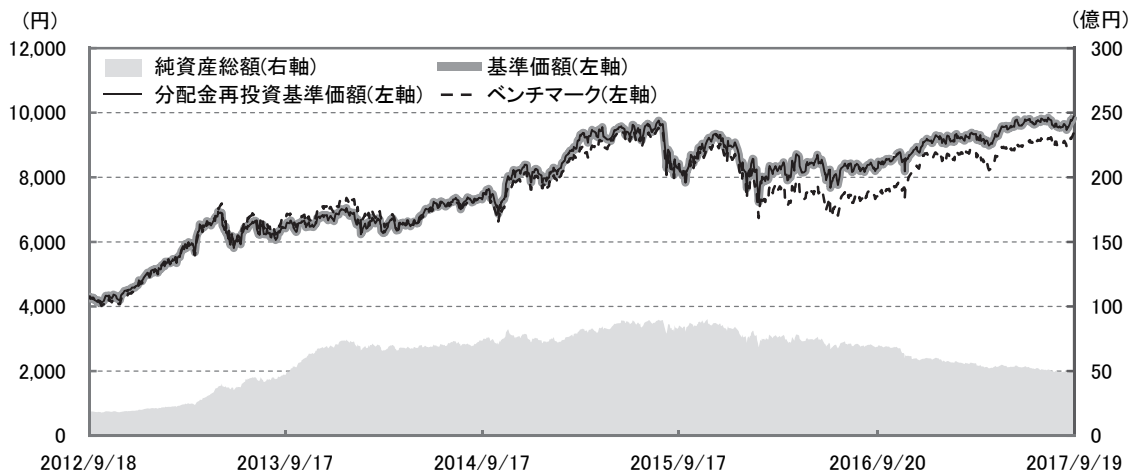
項 目	第40期 (2017年3月18日～2017年9月19日)		項目の概要
	金額	比率	
平均基準価額	9,505円	—	期中の平均基準価額です。
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	78円 ( 35) ( 38) ( 5)	0.821% (0.368) (0.400) (0.053)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 情報提供、各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料  (株 式)	1  ( 1)	0.011  (0.011)	売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用 (監査費用)	1 ( 1)	0.011 (0.011)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人に支払うファンド監査に係る費用
合 計	80	0.843	

(注1) 費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注3) 項目毎に円未満は四捨五入し、単位未満は0円と表示しています。

## 最近5年間の基準価額等の推移について



- (注1) ベンチマーク(ファンドの運用を行うにあたって運用成果の評価基準又は目標基準とする指標)は、『TOPIX(東証株価指数)』です。ベンチマークは、2012年9月18日の値をファンドの基準価額と同一になるように指数化しています。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税引前)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 分配金を再投資するかどうかについてはファンドおよび販売会社の取り決め、もしくはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なるので、上記の推移がお客様の損益の状況を示すものではありません。

## 最近5年間の年間騰落率

決算日	2012年9月18日	2013年9月17日	2014年9月17日	2015年9月17日	2016年9月20日	2017年9月19日
分配落ち基準価額(円)	4,273	6,422	7,317	8,423	8,288	9,905
期間分配金合計(税引前)(円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率	—	50.3%	13.9%	15.1%	△ 1.6%	19.5%
ベンチマーク騰落率	—	55.8%	10.4%	14.3%	△ 11.7%	26.6%
純資産総額(百万円)	1,884	4,706	7,336	8,511	6,901	5,061

## 投資環境について

2017年4月前半は、シリアや北朝鮮の情勢緊迫化を背景とする地政学リスクの高まりや、トランプ米政権の政策の実現性に対する懸念などから下落したものの、同月後半には、仏大統領選挙の第1回投票の結果を受けて急反発しました。さらに、5月中旬にかけては、仏大統領選挙の決選投票の結果が好感されたことなどから続伸しました。5月下旬は、米「ロシアゲート」問題や北朝鮮によるミサイル発射などから軟調となったものの、6月は米国株式の上昇などに牽引されて日経平均株価は月末に2万円台を回復しました。7月は日銀短観で企業の景況感が幅広く改善していることが確認され、8月中盤には4-6月期の国内総生産(GDP)速報値が予想を上回る伸びとなり足下の景気の力強さが確認されたものの、円高への警戒が高まりました。為替はこの半年間でユーロ高となり、円は対米ドルでは110円前後と5円ほど円高になりました。

## ポートフォリオについて

当ファンドでは、ボトムアップ・アプローチによる銘柄選択を行い、個別銘柄を積み上げてポートフォリオの構築に努めました。当期における主要な取引において、2017年5月は構造改革の進展により継続的な利益成長が見込まれる化粧品製造銘柄を新たに組み入れました。また、7月はインテリア／生活雑貨銘柄を新規にポートフォリオに組み入れました。当該銘柄は、十年来継続的な利益成長を達成しており、優れた経営戦略と執行力を備えた優良企業と考えられます。今後も引き続き利益成長が想定できることから、当ファンドが掲げる長期投資の運用哲学に合致し、パフォーマンス向上に寄与するものと考えています。

## ベンチマークとの差異について

当ファンドの騰落率は、ベンチマークであるTOPIX（東証株価指数）の騰落率を0.3%下回りました。

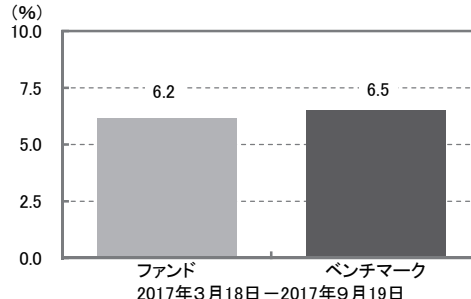
当期においてファンドのパフォーマンスにプラスに寄与した銘柄は、

- キーエンス：自動化（FA）センサーなど検出・計測制御機器大手。工場生産のFA機器向け需要などが好調で、中国やアジア向けを中心に受注は拡大しました。
- ピジョン：育児用品で国内最大手メーカー。中国や北米などを中心にベビー・マタニティー関連商品の販売が好調に推移しました。

一方でマイナスに寄与した銘柄は、

- アマダホールディングス：金属加工機械の国内大手で、2017年8月にはJPX日経400指数に新規採用されました。
- アシックス：スポーツシューズの国内大手メーカーで、海外では欧米に強みがあるものの為替変動に伴う欧州事業の採算悪化等が懸念されました。

基準価額とベンチマークの対比（騰落率）



## 分配金について

期末の基準価額の水準を勘案し、当期の収益分配を見送らせて頂きました。なお、収益分配に充てなかった利益は信託財産に留保し、留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

## 分配原資の内訳

（単位：円・%、1万口当たり・税引前）

項目	第40期
	(2017年3月18日～2017年9月19日)
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	3,261

(注1) 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後・繰越欠損補填後の売買益(含、評価益)」から分配に充当した金額です。また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

(注2) 円未満は切捨てており、「当期の収益」と「当期の収益以外」の合計が「当期分配金」(税引前)に合致しない場合があります。

(注3) 当期分配金の「対基準価額比率」は当期分配金(税引前)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

## ● 今後の運用方針について

日本株式を主要投資対象とし、グローバルな視点に立って日本の株式市場の大きな流れを捉え、企業訪問等を中心とした徹底した調査・分析に基づき個別銘柄を選別するボトムアップ・アプローチによるアクティブ運用を引き続き行います。

北朝鮮のミサイル問題で地政学リスクが高まり、4－6月期のGDP改定値も下方修正されました。決算日にかけて日経平均株価は2万円を上回る水準で推移しておりますが、マクロ経済の影響を受けにくく、成長持続が可能なビジネスモデルを持つ企業の発掘と投資に注力します。引き続き、質の高い銘柄を選択することがとても重要であると考えます。

## ● お知らせ

◇アバディーン・アセット・マネジメントPLCとスタンダード・ライフplcの合併完了に関するお知らせ

アバディーン投信投資顧問株式会社は、英国を本拠地としてグローバルに業務を展開するスタンダード・ライフ・アバディーン・グループの日本法人となりました。

当社の親会社であるアバディーン・アセット・マネジメントPLCは2017年8月にスタンダード・ライフplcと合併し、スタンダード・ライフ・アバディーンplcとなりました。その傘下で資産運用部門を担うアバディーン・アセット・マネジメントおよびスタンダード・ライフ・インベストメンツの関連法人は、「アバディーン・スタンダード・インベストメンツ」ブランドのもとで共に運営いたします。

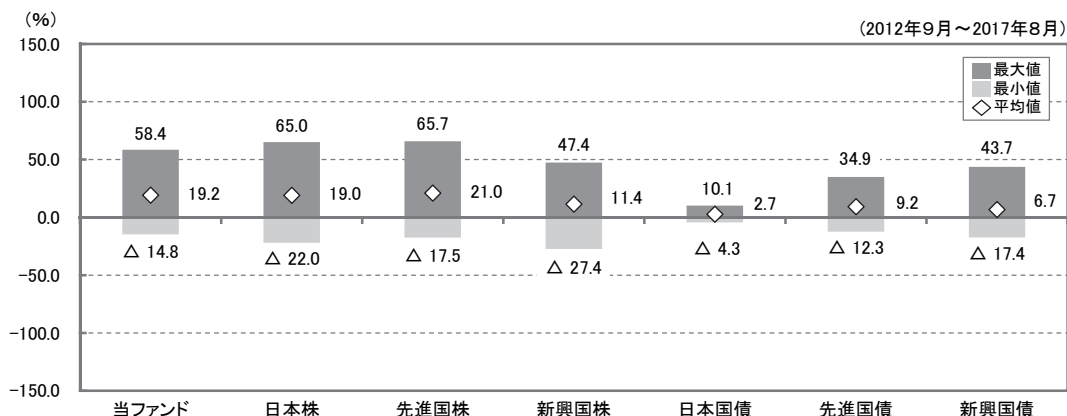
統合後の新グループは英国で最大級のアクティブ運用会社となり、引き続き運用サービスの提供と、運用目標の達成に向け尽力していく所存です。

## ● 当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／国内／株式
信 託 期 間	無期限
運 用 方 針	グローバルな視点に立って日本の株式市場の大きな流れを捉え、企業訪問等を中心とした徹底した調査・分析に基づき個別銘柄を選別するボトムアップ・アプローチによるアクティブ運用を行います。長期的な視野に立った運用を基本とし、運用コストを低減したポートフォリオの構築を行いつつ長期的にベンチマークを上回る投資成果を目指し、信託財産の成長をはかることを目的とします。
主 要 投 資 対 象	日本株式を主要投資対象とします。
当 法 ン ド の 運 用 方 法	株式への投資には、制限を設けません。
分 配 方 針	毎決算時(原則として毎年3月17日および9月17日)に、繰越分を含めた利子、配当収入および売買益(評価益を含みます)の中から、基準価額の水準、市況動向などを勘案して決定します。収益分配金は税金を差引いた後、自動けいぞく投資契約に基づいて自動的に無手数料で全額再投資されます。

## ● 参考情報

### 当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



\* 2012年9月～2017年8月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大・最小・平均を、当ファンド及び代表的な資産クラスについて表示し、当ファンドと代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。当ファンドの騰落率は、税引前の分配金を再投資したとみなす分配金再投資基準価額により計算され、実際の基準価額に基づく騰落率とは異なる場合があります。騰落率は直近月末から60ヵ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

#### \* 各資産クラスの指数

日本株・・・東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)

先進国株・・・MSCIコクサイ・インデックス (配当込み、円換算ベース)

新興国株・・・MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込み、円換算ベース)

日本国債・・・シティ日本国債インデックス

先進国債・・・シティ世界国債インデックス (除く日本・円ベース)

新興国債・・・JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ベース)

注：海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

### 「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

- 「東証株価指数 (TOPIX)」に関する知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。東京証券取引所はTOPIXの算出もしくは公表方法の変更、「TOPIX」の算出もしくは公表の停止または「TOPIX」の商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。
- 「MSCIコクサイ・インデックス」および「MSCIエマージング・マーケット・インデックス」は、MSCI Inc.が開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権、その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。またMSCI Inc.は同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。
- 「シティ日本国債インデックス」および「シティ世界国債インデックス (除く日本・円ベース)」は、Citigroup Index LLCの知的財産であり、指数の算出、数値の公表、利用など指数に関するすべての権利は、Citigroup Index LLCが有しています。
- 「JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ベース)」とは、J.P.Morgan Securities Inc.が算出し公表している指数です。当指数の著作権は、J.P.Morgan Securities Inc.に帰属します。

## ● ファンドのデータ

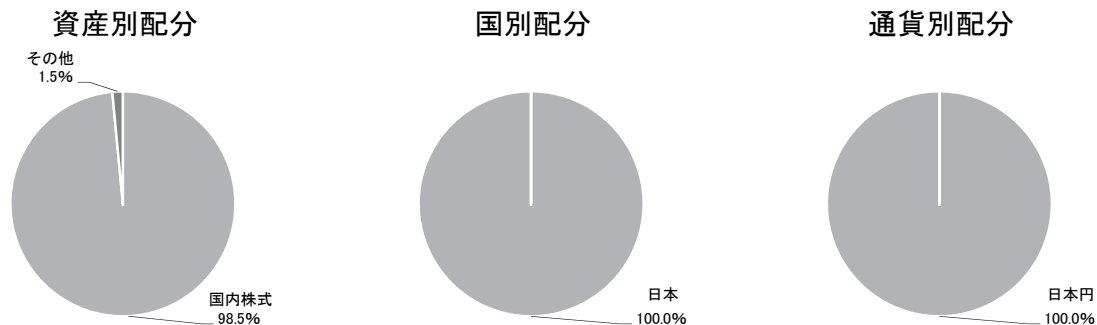
### 当ファンドの組入資産の内容

#### 組入上位10銘柄

(組入銘柄数：40銘柄)

	銘柄名	業種名	組入比率
1	信越化学工業	化学	6.4%
2	キーエンス	電気機器	5.5%
3	日本たばこ産業	食料品	4.8%
4	セブン&アイ・ホールディングス	小売業	4.3%
5	ファナック	電気機器	4.0%
6	アマダホールディングス	機械	3.9%
7	KDDI	情報・通信業	3.9%
8	シスメックス	電気機器	3.8%
9	ヤフー	情報・通信業	3.7%
10	ナブテスコ	機械	3.6%

#### 種別配分等



(注1) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分の各データは当ファンドの直近の決算日である2017年9月19日現在のものです。

(注2) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分の各比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

※組入全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)をご覧ください。

#### 純資産等

項目	第40期末 (2017年9月19日)
純資産総額	5,061,927,775円
受益権総口数	5,110,611,329口
1万口当たり基準価額	9,905円

(注) 当期における追加設定元本額は36,657,228円、同解約元本額は924,404,748円です。